

デジタル副大臣 兼 内閣府副大臣
衆議院議員

大串まさき

<http://www.m-ogushi.com/> 国政報告

- ✔ G7 デジタル・技術大臣会合が開催
- ✔ 宝塚市の植木産業について
- ✔ 統一地方選挙を終えて

ガブリック VOL. 35



大串まさき プロフィール

デジタル副大臣 兼 内閣府副大臣
元 経済産業大臣政務官

- ▶ 昭和 41 年生まれ。報徳学園高卒。東北大学大学院修了。博士（知識科学）。IHI、松下政経塾、大学准教授などを経て現職。現在 4 期目。
- ▶ 社会保障・教育・経済など多様な政策分野で活動中。
- ▶ 家族は妻と 2 人暮らし + 保護猫 1 匹（三毛猫）。趣味は釣り・絵画・多肉植物など。スポーツは高校まで剣道一筋。好きな食べ物はカレーライスとラーメン。座右の銘は「威ありて猛からず」。

お問い合わせ先

自民党への入党のご希望、国政報告会への参加希望など、お問い合わせは下記までお願い致します。

〒664 兵庫県伊丹市中央 1-2-6
-0851 グランドハイツコーワ 2-12
TEL:072-773-7601
FAX:072-773-7602

✉ info@m-ogushi.com



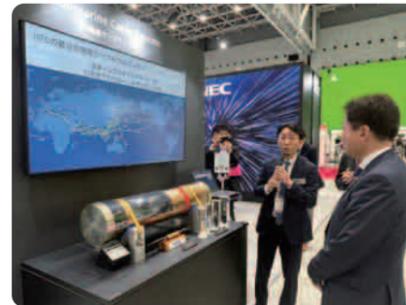
G7 デジタル・技術大臣会合が開催

本年は、わが国が G7 議長国を務め広島で G7 サミットが開催。前後して全国各地で 10 を超える閣僚会合も開催されます。デジタル分野もその一つとして 4 月末に群馬県の高崎市でデジタル・技術大臣会合が開催されました。本会合では、以下の 6 つのテーマで議論が行われ **G7 デジタル・技術閣僚宣言** が採択されました。

- ① 越境データ流通と信頼性のある自由なデータ流通 (DFFT) の推進
- ② 安全で強靱なデジタルインフラ構築
- ③ 自由でオープンなインターネットの維持・推進
- ④ 経済社会のイノベーションと新興技術の推進
- ⑤ 責任ある AI と AI ガバナンスの推進
- ⑥ デジタル市場における競争政策



G7 会合と並行して、さまざまなサイドイベントが開催されました。私もデジタル副大臣として、日米両国の産学官が集まる会合（**The 7th U.S.-Japan Digital Innovation Hub Workshop 2023**）で講演（キーノートスピーチ）を行いました。デジタル社会における信頼性の確保の重要性と DFFT の推進について、日本の立場や考え方をお話させていただきました。また、民間企業などが参加した展示会も開催されましたので、日本企業の最先端の技術動向を視察し、大いに刺激を受けました。今後の政策に生かして参ります。



光海底ケーブルの敷設技術



建設機械の遠隔操作



メタバースを体験

政策解説：DFFT（Data Free Flow with Trust：信頼性のある自由なデータ流通）

DFFT とは「プライバシーやセキュリティ、知的財産権に関する信頼を確保しながら、ビジネスや社会課題の解決に有益なデータが国境を意識することなく自由に行き来する、国際的に自由なデータ流通の促進を目指す」という考え方です。2019 年 1 月にジュネーブで開催されたダボス会議で安倍総理（当時）が提唱し、同年 6 月の G20 大阪サミットにおいて首脳宣言に盛り込まれました。今回の会合においても「DFFT の円滑化による国際経済の回復・持続化」「ルールと仕組みにおける相互運用性・可用性・信頼性を高めるためのマルチ・ステークホルダーによる対話の重要性」「国際枠組みへの期待」について言及されました。デジタル社会においてデータは必要不可欠な要素。プライバシーやセキュリティ、知財等が守られた形でデータの流通を促進することが重要であり、日本としては信頼の確保を重視しています。データの自由な越境移転が実現すれば、日本企業のグローバルなビジネス展開を後押しすることとなります。今回合意した国際的な枠組みを日本が主導して推進し、G7 を始めとする同志国間で協力を進めていき、こうした目標を実現していきます。



大串まさき 国政報告

自由民主党 兵庫県第六選挙区支部ニュースレター
ガブリック 第 35 号（令和 5 年 5 月 15 日号）

頒布責任者：浅井勝弘 伊丹市中央 1-2-6 グランドハイツコーワ 2-12
印刷者：(有)弘栄堂印刷所 伊丹市中央 4-1-11

討議資料

宝塚市の植木産業について

5月5日、晴天の中、山本地区で「**とんこ祭り**」が盛大に開催されました。5年に一度の盛大な祭りで、地元の皆さん総勢 350 人が時代衣装に身を包み、松尾神社から天満神社にかけて神輿を担ぎます。園芸・造園関係者や地車（だんじり）保存会の皆さんなど、地元総出の一大イベントとなっています。

歌劇の街として知られる宝塚市ですが、山本地区（伊丹市の北部も含む旧長尾村を中心とする地域）は、古くから植木の産地としても有名です。**日本三大植木産地**としても数えられます。ちなみに他の二つの地域は、埼玉県川口市（安行地域が江戸近郊の街道沿いという立地の良さから繁栄）と、福岡県久留米市（ハゼノキや柑橘類、久留米ツツジが有名）です。

宝塚市の山本地区は少し特殊で、その立地や気候条件とは異なり「技術」が元となって発展してきました。約 400 年前、坂上頼泰（1515 年生）は、山本の地で「**接ぎ木**」の技術を研究していました。これが豊臣秀吉に認められ「**木接太夫**」という称号を贈られます（1593 年）。そして植木類の販売が許可され、地場産業として発展していきます。

終戦時に一時、産業が衰退し戦後に復興して現在に至りますが、後継者不足や戸建て住宅の需要の減少など、造園業には厳しい時代となっています。それでも、技術がベースとなって生まれた地場産業であるので、しっかりと応援して参ります。

国会でも具体的な取り組みがあります。自民党では「**都市公園緑地等整備促進議員連盟**」という会議体が造園業を応援しています。私も議員連盟の事務局次長として活動しています。当初は、都市部での公園整備を推進するという目的の議員連盟でしたが、時代とともに、量から質へと移行しています。海外でも日本庭園の人气が高まりつつあり、日本文化としての造園技術を魅せる場は世界へと広がっています。これらの質を担保する資格に「**造園技能士**」や「**造園施工管理技士**」といった国家資格や、民間の「**街路樹剪定士**」「**植栽基盤診断士**」など専門性の高い資格があります。一部の自治体の発注工事においては造園技能士の配置を求めていたり、技能士の配置を評価項目にあげている地域もあります。努力をした有資格者が、社会で認められて存分に活躍できるように、引き続き環境整備を進めて参ります。



統一地方選挙を終えて

4月の統一地方選挙では多くの皆さまからのご支援をいただき、伊丹市と宝塚市の両市で、県議会・市議会の全ての公認候補が当選を果たしました。

伊丹市の県議会には**中田慎也**、宝塚市の県議会には**風早ひさお**が、それぞれ再選を果たしました。残念ながら川西市・猪名川町では県議会の議席を取り戻すことができませんでした。4年後に向けて体勢を立て直して頑張るつもりです。



伊丹市議会議員選挙では自民党公認候補の**加藤みつひろ**、**戸田龍起**、**土井ひでかつ**、推薦候補の**花田こうじろう**の全員が当選を果たしました。宝塚市議会議員選挙では、同じく自民党公認候補の**とみかわ晃太郎**、**あさたに亜紀**、**大川裕之**の3名全員と推薦候補の**大島ちとせ**が当選しました。また保守系無所属として戦った伊丹市の**杉一**、宝塚市の**桑原健三郎**も当選しました。それぞれの地域で、新たな活動をされることと思いますので、引き続き国・県・市で連携をしながら地域の諸課題に対応して参ります。

一方、今回の選挙では自民党に対する厳しいご意見もいただきました。反省すべき点はしっかりと反省しつつ、これからも信頼していただけるよう、国会の仕事と併せてきめ細かく地元での活動もおこなって参ります。



編集後記

河野大臣のサポート役ということもあり、デジタル副大臣は出張がほとんどなく G7 会合が初めての出張となりました。改めて海外の方々の話を伺うことは、我が国の立ち位置を確認する上で大切だと認識しました。また副大臣

として関わった仕事は、着実に仕上げつつ、後に残すべきことも丁寧に整理しておきたいと思っています。さらに、この度、伊丹・宝塚・川西3市の市役所の職員がデジタル庁に出向してくれました。今後は、地元にもデジタル化の最新情報が届くように繋がります。